

心の化学反応も、子どもたち
に実感してほしい

七色の人工イクラや、日光
に当てると透明になる液体。
不思議に思える化学反応も、
実は身近に存在することを、
中山さんは地域の子どもたち
に楽しく紹介しています。

【科学者と教育者への夢】

企業の研究員そして工学博
士として、研究に没頭してき
た中山さんですが、子ども
頃から科学者を目指していた
訳ではないと言います。

「転換期は中学3年生。時
代は石油化学の全盛期でし
た。何かと自分の長所を見つ
けてくれる恩師が、化学の道
を勧めてくれたんです。それ
まで興味が湧かなかつた分野
ですが、試しにやってみたら
すごく面白くて、進路を決め
てしまいました。食わず嫌い
だったんですね」

一方で、人生に役立つ教育
に導いてくれた、
恩師たちに憧れて
いた中山さん。研
究員としての定年
を待たずに、教育

者の道に飛び込みました。

【改善から得た自信】

大学教授として、中山さん
は講義と同じくらい、実習に
力を注ぎました。学生の説明
スキルを磨くため、小中学生

が出ずに、反省ばかりでした。
でも、改善しながら回数を重
ねるうちに、多方面から誘い
を受けて、気が付けば毎年20
回以上も開催。今思うと、結
果に満足していたら、次には
つながらなかつたでしょう。



子ども科学実験隊の隊長
中山 隆雄さん (月坂一丁目)

を対象とした楽しくて分かり
やすい理科教室を提案。自ら
も一緒に、静岡市などで
精力的に開講しました。

「練習をして本番に望んで
も、子どもたちの反応はいま
ひとつ。初めは満足いく結果

11年間続けた理科教室は『伝
え方次第で理科好きになる』
という自信、そして私のライ
フワークになりました」

【挑戦が変化を生む】

昨年、教育の一線を退いた

中山さんが、次の生きがいと
して取り組むのが、地元版の
理科教室「子ども科学実験隊」
です。

「視聴者を驚かす、実験番
組。でもテレビには、子ども
自身が抱いた疑問をじっくり
考えるだけの時間の余裕はあ
りません。観察力や忍耐力を
養えないのです。だから私の
理科教室では、いつでもどこ
でも再現可能なように教材を
工夫して、お土産に渡します。
身近な化学反応を、記憶だけ
でなく形にも残す。子どもの
やる気は、いつ顔を出すか分
かりませんからね」と科学者
魂の火が再熱しています。

「君ならできるといふ教え
手の気持ちが変わると、子ど
もの理解力は格段に向上しま
す。そして、彼らのひらめき
と瞳の輝きが、今の私の原動
力です。人生は、やってみな
ければ何が起こるか分からな
い実験。可能性を探すことを
忘れない姿勢が、自分の心の
中にも化学反応を起こすこと
を、実感してほしいですね」
優しく話す中山さんの笑顔
には、理科嫌いの心を溶かす
作用があるようです。



金谷公民館で実験の
説明をする中山さん

Shimadian File #42

